

医療勤務環境改善支援センターの活用事例 <帯広市 帯広西病院>

～病棟転換・電子カルテ導入に向けて、看護職の業務効率向上を目指す事例～

●公益財団法人北海道医療団 帯広西病院（帯広市、1980年11月開設）

- ・許可病床数：135床（回復期リハ43床、療養92床）
- ・診療科目：内科、消化器科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科
- ・職員数：約130名（常勤医師3名、看護職員90名など）

（写真：帯広西病院ホームページより）



○医療勤務環境改善支援センターへの相談の経緯

2018年11月

・センターへの電話相談

「看護師・看護スタッフのシフトを見直すことで、受け入れられる入院患者の数を増やし、病院の収益改善を目指したい」
⇒病院の収益改善に「シフトの見直し」が有効なのか、改めて状況を確認する必要があると判断、アドバイザーによるヒアリングを実施することとする。
⇒看護部門の勤務環境に精通する「北海道看護協会」に協力を依頼。ヒアリングに同行いただく。

2019年1月

- ・1/21、センターアドバイザーによる初回ヒアリングを実施。先方は院長、事務長、看護部長、病棟師長3名。以下のような状況を把握。
⇒看護職員が「やりがい」をもって仕事できていない。病棟稼働率が低い。
 - ・病床転換・電子カルテ導入を予定しており、看護職員のモチベーションがさらに下がったり、退職する職員がでる可能性がある。
- ・自分たちの仕事・病院の良さに気付いて、業務に前向きに取り組める意識づくりが必要。
- ・看護職員の業務状況や意識を把握する必要⇒日看協「看護インデックス調査」の活用

○医療勤務環境改善支援センターによる支援の手順

2019年2月 支援プランの作成・提示、合意。センターによる支援開始

ステップ1

病院の現状・課題認識の把握、課題設定

○解決したい課題の設定

- ・病床種類やベッド数が変わっても、職員が働き続けたいと思える職場環境をつくりたい
- ・看護職員の資質を向上させることで効率的な病棟運営を行いたい

ステップ2

課題解決に向けたセンターによる支援の検討

○支援プランの作成

- ・看護職員が自分の仕事と病院の「良さ」「強み」に気付くための研修の実施
- ・「看護インデックス調査」を活用した業務分析の実施

ステップ3

センターによる具体的な支援の実施

○主な支援

- ・看護協会の協力による研修講師の選定（病院規模・種別が類似した病院看護部長）
- ・研修会の企画・運営、参加者アンケートの集計
- ・看護インデックス調査の情報提供

ステップ4

昨年度の結果を踏まえた新たな支援プラン作成（2019年4月以降）

○予定している支援と取組

- ・看護インデックス調査実施と結果分析
→「強み」と「弱み」の分析、「弱み」の改善に向けた取組検討
- ・看護管理者の負担軽減に向けた業務分析・整理 など

2018年度

2019年度